

「子育て支援」よりも「子育て支援」を！

明治の初めに来日した考古学者モースは「日本は子ども達の天国である。日本ほど子どもが大切に扱われている国はない。」と日記にしています。当時は大家族が普通で、地域の人々の社会での役割や営みもわかりやすい社会でした。また道路も遊び場であり、寄り道やケンカも楽しい思い出の時代でもありました。

現代は物や情報が溢れ、AIによる正確さとスピード社会へと突き進んでいます。人との関わりや失敗を経ずして大人になることに危機感を感じます。それだけに、「子ども時代を子どもらしく夢中で生きること」、「身近な遊びを通して、気づき、考え、肌や心で感じ、認められる。」体験が大切です。

あゆみこども園では、平成の始めより、異年齢クラスから発する自然な育ち合いを大切にしています。これからも「子ども自身の育ちを見守る子育て支援を！」の考えのもと、成長への階段を日々確認し援助することを心に留め、生きる力に繋げていきたいと思っています。

保育方針

人格の基礎が形成される時期のこども園は、保育教諭と共に生活し、子どもが主体的に遊ぶ場である。深い愛情を柱に、保育教諭がモデルとなり、発達過程を踏まえた環境と人と人との関わりにより、伸びようとする力を引き出し、励まし、見守ることで、自立、表現力、強調など、生きる力の源を養う。

伸ばそう無限の力、広げよう思いやりの心！

保育目標

- 正しい生活習慣
- しなやかな体
- おもいやる心
- 深く考える力
- 共に育ちあう

保育の特徴

■ 異年齢保育（個の育ちを見守る）

近年は少子化や外遊びの減少から、子どもたちが年齢や興味を超えて幅広く育つことが少なくなっています。

異年齢保育は同年齢保育に比べ、遊びの幅が広がり、子ども同士の遊びを通して、個々の主体性・自立心・善悪の判断などを肌で感じ取りながら育ちます。年少児は年長児に憧れをもち、意欲をかきたてられ、年長児は年少児に優しく思いやりや利他の心をもって接するなかで自律の心も培います。

■ 乳児担当制保育

乳児にとって、育児をしてくれる保育教諭が決まってい、やさしい眼差しに見守られ、困ったときに助けてもらえる安心感が情緒の安定につながります。

また、個人差や生活リズムを大切に、部屋の保育教諭同士がチーム連携を密に、子どもを待たせない保育を心がけています。担当が変わっても子ども達への保育は同じであることが安心感となります。

■ プロジェクト保育

時間や空間認識・数の概念・体・世界など、生きるために必要なテーマに沿った環境を月毎に用意することで、興味や好奇心が沸き、遊びを通じた広がりや経験から学ぶ保育です。

「ものの決まり・仕組み・働き」を知り、言葉への興味や関心を育てることで、現代っ子の課題である相手にうまく伝える力や表現力、深く考える力を培っています。

■ リズム運動と体幹遊び

体力は就学してからですが、乳幼児期には「身のこなしの良さ」が大切です。最近では、この運動神経が日常生活や遊びの中で自然に促されることが期待できません。そこで意図的に取り組んでいるのが「リズム運動や体幹遊び」です。

保育教諭の指示や号令でなく、遊び感覚を大切にしながら、自発的に取り組む内容となっています。異年齢の中で、裸足保育や多様な遊具、年間プログラムと相まって、「動きが育てば身体が育つ」を実感、運動好きな子に育てています。

デイリープログラム

生きる力の基礎を育てる

基本的な生活習慣は、異年齢環境の中で、見て学ぶ事や繰り返しの経験によって身に付けられます。テーマを持った多様な環境を用意することで、五感を磨き、言語力を広げ、理解を深め、自然の摂理、考える力、判断する力を培っています。



あかるく、ゆうきをもって、みんななかよく
げんきな あゆみっこ

園内の様子



▲メダカが気持ちよく泳いでいる姿を見ると子どもも保護者も癒されます（ビオトープ）



▲長時間過ごすお部屋は、自然のようなやさらぎと暖かさを感じる空間となっています。



▲魚が泳いでいたり、近くの山々を眺めたりとそれぞれ違った楽しいトイレ



▲何千冊もの本を収納した絵本の部屋。屋根裏として、ほっこりとした空間でもある。



▲井戸水を満たすことで水遊びができる玉砂利を張り詰めた小道



▲お話しタイムやテーマ展など多目的に使える広い円形階段



▲屋上のプールと園庭を囲むミストが夏場の遊びを盛り上げてくれます。



▲昼間でも和太鼓練習などができる防音扉と鏡で囲まれたプレイルーム



▲ホールはテラスと一体化すると、ハンモック等も吊るせる広い遊び場。大型スクリーンとカメラ音響設備で感動のステージとなります。



▲いろんな雲梯を最後まで渡りきることで、自慢のがんばりまめができます。



▲たくさんの遊びが詰まった大型遊具とクッション付き人工芝が子ども達の遊びを広げてくれます。



▲調理の姿が見え、自然と食への興味や好奇心が沸き、体験クッキングの場でもある食堂



▲吊り輪雲梯等、様々な遊具がある屋上遊戯場。夏場はシャワーを完備し、大胆な水遊び場となります。



▲雨の時にも、総合遊具に加え、跳び箱、縄跳びなど様々な遊具で遊べるテラス空間



▲オーニング、ガチャポンプを備え大胆な遊びができる大きな砂場



▲「足の裏への刺激を！」と工夫された階段と滑り台、毎日裸足で上り下りすることで、頭もすっきり